

# 私が 障害福祉サービス事業所 障害児通所支援事業所で 働くようになった訳



## 障害福祉サービス事業所で働く前

私は長野県に住んでいた高校生の時に、保育士にあこがれて群馬県の関東短期大学のこども学科に進学しました。大学では、保育に関する基本的な知識に加えて、ピアノなどの保育技術を学びました。

1年生の時に障害施設での実習がありました。ご利用者にどのように接していいのかわからない不安があり、なかなか話すことができませんでした。そんな時にご利用者の方から私に近づいて話しかけてくれました。その温かさに触れ不安はなくなり、自分から積極的に関わるようになりました。また、職員の方のご利用者に対する気配りや笑顔で接する姿を見て、福祉の仕事に興味を持ちました。

その後、就職を考え始めた時に、「福祉の道」か「保育の道」で迷いました。自分に合った職業は何なのかを考えた時に、福祉施設での実習が一番やりがいを感じ充実していたと思い、友人に相談したところ、友人が実習を行った「大地」を紹介してくれました。

施設見学を行い、利用者の笑顔や、職員の人柄の良さに触れ大地に就職したいと思いました。

## 働き始めると

入社し、働き始めると障害者に対する支援の難しさを感じました。ご利用者が何をしたいのかを読み取って行動する事、一人ひとりに対する気配りの難しさに、自分は何をすればいいのかわからなくなりました。





その時、先輩職員に相談したところ、自分に合った支援をすればいいと言われ、利用者と触れ合う中で「待つ支援」を心がけた時に大きな達成感を感じました。

働き始めて、もうすぐ一年という時に「にじいろ」への異動を伝えられました。少し動揺しましたが、「障害福祉」か「児童保育」と迷った自分に何が出来るのか楽しみにしていました。

にじいろでは、わからないことも多く困惑することもありましたが、職員のやさしさや、子どもたちのハツラツとした姿に元気をもらいました。大地で学んだことを生かしながら、にじいろでも子どもたちに元気を与えられるような存在になりたいと思いました。



### これからの私

にじいろでは、子どもたちの元気に負けないよう、いっぱい関わって、いっぱい遊んでいきたいと思っています。また、みんなが楽しんでくれるような製作やイベントを考えていきたいです。そのために、子どもたちが何に興味を持っていて、どんなことが出来るのかを知り、支援することだと思います。これからも色々なことに挑戦すること、学ぶ姿勢を忘れないこと、を大切にしていきたいと思っています。



### 配属部署 上司からひとこと

2019年4月に入社した田中さんが、障害のある大人への支援（障害者支援）を1年間学んだ後、保育士の資格を生かして「にじいろ」に2020年4月に異動になりました。

大きな体と笑顔で、優しく子どもたちを受け止めてくれるので子どもたちも安心するのでしょうか、すぐに人気者になりました。大学生の時の保育実習の成果もあるようで、勤務当初より体を使った遊び

や虫取りもなんでも一緒に行ってくれます。

また、得意な製作活動を担当し、子どもたちに喜んでもらおうと工夫を凝らした製作活動を行ってくれています。一生懸命に子どもたちに向き合う姿は頼もしく感じます。

子どもたちが「楽しい、嬉しい」といった経験を重ねられるように、今後は療育的指導の勉強を進めてほしいと思います。また、子どものニーズを察していくための児童心理、障害のある子どもをもつ家族へのペアレントトレーニングや母親への気の配り等も学んで欲しいと思います。

にじいろに通う子どもたちのよき理解者の一人として、ますます成長していくことを楽しみにしています。

にじいろ 管理者兼児童発達支援管理責任者 齋藤真知子

田中 翔（たなか しょう）平成10年生まれ 関東短期大学 平成31年3月卒業

平成31年4月 社会福祉法人健翔会へ入職

入職後、健翔会の運営する障害福祉サービス事業所大地に所属される

事業拡大のため令和2年4月に放課後等デイサービスにじいろに異動

健翔会 にじいろ 行田市忍1-11-1 電話：048-598-5252